



創造みらい半田
水野尚美

ひきこもりに対する 支援体制を問う

問 ひきこもりに関する相談窓口が明確でなく、また情報が必要な方に届いていないと考えますがいかがですか。

答 本市の相談窓口が生活支援課だということや、リーフレットの配置を考慮するなど必要な方に届くようにします。

問 義務教育終了時、地域や他の相談窓口にも必ず繋ぎ、本人と家族に関わり続けることが重要だと思えますがいかがお考えですか。

答 中学校卒業時の進路選択相談の中で、社会福祉協議会や生活支援課と繋ぐ機会を設けています。

問 民間団体と連携して行政だけでは解決できないことが限られるため、不登校・ひきこもり支援団体や、就労支援団体、事業者など様々な民間団体にご協力いただきなど連携しています。本人支援は勿論のこと、家族の支援が更に重要だと思いませんか。

答 家族が問題を抱え込まず、孤立させないよう支援に努めます。

問 訪問支援などアウトリーチも必要だと思いますが、いかがお考えですか。

答 家庭訪問や外出支援などをしていますが、今後社会と繋ぐ仲立ちを視点にもって取り組みます。

問 実態調査が必要だと思いますが、いかがお考えですか。

答 今年度末に実施する「第2次地域福祉計画」策定のためのアンケート調査の中で、ひきこもりに関する設問を設け、実態把握に努めます。

問 ひきこもり支援を専門的に行う窓口や居場所の設置が必要だと思いますが、いかがお考えですか。

答 専門窓口の設置は考えていませんが、生活支援課において真摯に対応し、家族会などの活動には寄り添って支援します。また、相談窓口の存在を明確にするため、市報やリーフレットによる啓発を図るとともに、民生・児童委員や福祉事業所等へ積極的に周知します。



市政を問う

一般質問（質問議員が執筆しています）



公明党
山本半治

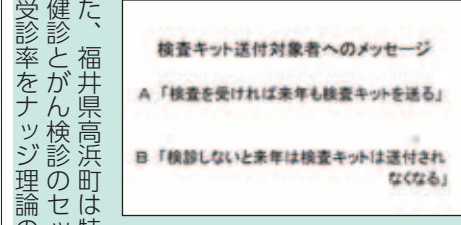
ナッジ理論で延ばす 健康寿命

問 健康寿命を延ばすに「特定健診とがん検診」の受診率を上げることが重要です。東京都八王子市では、（人の心理に働きかけることにより行動を変える）ナッジ理論を活用して大腸がん検診の受診率を上げる取り組みとして、対象者へのメッセージをA「検査を受ければ来年も検査キットを送る」B「検査しないと来年は検査キットは送付されなくなる」としてアップしていました。

答 東京都足立区では、健康に関心を持たない区民であっても住んでいけば必ず健康になれるよう、ナッジ理論を活用して野菜たっぷりメニューを提供する協力店を募り健康寿命を延ばす取り組みを行っています。メタボ該当率県内1位の半田市も足立区の取り組みを参考にすべきと考えますがいかがですか。

問 足立区の取り組みを参考にナッジ理論を活用して健康寿命を延ばす対策を行います。

答 ナッジ理論はコストをかけずに成果が期待されます。全庁をあげて取り組む考えはあります。職員に有効性を周知し、若手職員による「仕事改善活動」の提案の中にも取り入れていきます。



志民ネット
小出義一

企業誘致と渋滞対策 そして定住化促進

問 「企業誘致」により人口減少に歯止めをかけることができた。この状況を維持するには、渋滞対策が必要。この3年の間に、4千人規模の工場が進出していますが、渋滞緩和のためどのような取り組みがあったかお聞かせ下さい。

答 衣浦大橋西側交差点の改良工事が完了しました。また臨海部の企業に、時差出勤やバス運行、自転車通勤などの協力をお願いしてきました。

問 臨海部の企業の中で新たに事業規模を拡大する計画があるとのこと。今後、どのような渋滞対策を考えているかお聞かせ下さい。

答 衣浦大橋周辺の渋滞対策については、衣浦大橋の左折レーン整備を進めています。また交通量分散を図るため、都市計画道路環状線の早期完了に向けた整備を進めています。

問 日東町・潮干町の臨港道路では、対向車が途切れないと右折して工場内へ侵入できない箇所があり、事故が多発する危険箇所になっています。工場内への専用レーンなどを設けるなど対応が必要。どのようにお考えかお聞かせください。



答 設置が可能かどうか関係機関と協議する必要があります。企業から設置希望があれば、関係機関との協議の調整役を務めていきます。

問 臨港道路周辺の企業の自家用車通勤増加が、渋滞発生の原因です。バス運行を義務化することも必要と考えますがいかがでしょうか。

答 企業側と全体的な影響について確認し、既存の従業員も含めどのような対応が出来るか、から協議していきます。